

## 第19回市民文化ホール建設委員会議事概要

日 時	平成 24 年 11 月 29 日(木) 19 時 00 分～21 時 30 分
場 所	福祉会館 3 階会議室 1
出席者	<p>委 員 土井健司、徳永幸夫、石川久、井上仁、大西高義、近藤達之介、 四国中央警察署、鈴木千明、鈴木太、土谷浩也、藤原達也、古川静江、 星川将一、三谷一恵、鈴木延寿</p> <p>事務局 利藤企画財務部長、河村市民文化ホール等整備課長、田辺課長補佐、 今村課長補佐、中山係長、加地係長、福田係長、佐藤、 加地市民交流課長、石川こども課課長補佐、吉岡建築住宅課長補佐</p> <p>空間創造研究所 米森</p> <p>日建設計 江副執行役員、小野主管、山本、佐賀</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

### (協議概要)

項 目	協議概要
■会議の成立について	○委員長: 委員 25 名中 15 名出席。過半数の出席を確認したので委員会は成立。
■会議の公開、非公開について採決	○委員長: 本日の議題が「基本設計について」であり、非公開とする議題ではないので公開。
■第 18 回議事概要について	○事務局: 第 18 回議事概要について説明。
■協議内容について説明	<p>○事務局: 本日の協議内容について提案及び説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本設計の内容について</li> <li>・企画・運営委員会への確認・提案事項について</li> <li>・今後の設計及び協議スケジュールについて</li> <li>・その他</li> </ul>
■基本設計について (1)外構について	<p>○日建設計: 外構計画に関し前回委員会までと変更した点を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場をより広々と、ロータリーからフラットに整備。</li> <li>・バリアフリーを意識し、北側駐車場からのアプローチである外周デッキを 1、2F 両方にアクセスできるスロープに変更。</li> <li>・南側の池に面したデッキテラスを広く確保し、カフェとの間の建具を3連の</li> </ul>

<p>(2) 奈落・オーケストラピット等</p>	<p>開き戸とし、内外の一体的な利用が可能とした。</p> <p>・前回委員会 VR 提示時に議論になった池の周りの斜面について、拡大図を提示し転落対策について説明。</p> <p>○委員長: ウッドデッキはリハーサル室と同様の面積があるのか? 普段は交流の場であるが、施設の中との一体利用も可能か。</p> <p>○日建設計: ほぼ同等の面積である。一体利用についても運用できると考えている。</p> <p>○委員: 池の周りの斜面は 20 度で緩和されたと思う。景観もよく、花火の時は人が並ぶのでは。樹木の選定はどのようにしているか。</p> <p>○日建設計: 樹木の選定は今後ご意見を踏まえて検討する。</p> <p>○委員: 芝生広場については、水はけに注意して勾配等計画して欲しい。</p> <p>○日建設計: 排水側溝や勾配の検討に際し気をつけて設計する。</p> <p>○委員長: 外構は基本的に透水性で水が溜まらなくなるのか。</p> <p>○日建設計: そのように設計する。</p> <p>○委員: 水盤の水深はどのくらいか。また、ウッドデッキの下は水があるのか。デッキ面と水面の高低差はどのくらいか。</p> <p>○日建設計: 水深は 30cm 程度。水はデッキの際で止まっている。デッキと水面の間はおおよそ 15cm 程度であるが、実施設計で検討していく中で上下する可能性がある。</p> <p>○委員: 植栽の選定についてお願いがある。イルミネーションの設置がなされる可能性があり、常緑よりも落葉のほうがいい。市民で灯そう 10 万の光実行委員会に確認をとったほうがいいのでは。</p> <p>○日建設計: イルミネーションをどの様に実施するのか情報を教えていただきたい。</p> <p>○事務局: 委員を通じて実行委員会へ確認をとることは可能か。</p> <p>○委員: 可能である。</p> <p>○委員長: 樹種の選定は重要であり、事務局の方で、できるだけ広く意見を求めてほしい。</p> <p>○委員: 樹木についてであるが、枝垂れ桜がいいという意見がある。</p> <p>○委員長: 駐車場の中の樹木については、駐車機能を妨げないように計画してほしい。</p> <p>○委員: 芝生広場の使われ方によっては電気、水道設備が必要になる。これらを整えてほしい。芝生広場に木はなくてもいいのでは。図面通りとしたら多すぎる。駐車場の木もなくてもいいと思う。太鼓台をここに持ってくると木があると不都合である。</p> <p>○委員長: 樹木の選定は企画・運営委員会で検討してほしい。</p> <p>○日建設計: プロポーザル時提案していた大ホールの舞台に奈落・迫り機構</p>
--------------------------	--

について

を持ち、オーケストラピット迫りを持つ大ホール設計案-1に対し、使用頻度・メンテナンス・コストを勘案し、奈落なしで大道具製作所との連携で代替し、オーケストラピット部分の躯体を掘り込んで組立式床構造とする設計案-2を提案。

○委員：オーケストラピットは使用頻度、コストより必要ではないのでは。迫りは四国内の「県文」と呼ばれるホールには備えられているケースが多いが、倉庫としてしか使用されておらず、迫りは奈落へのエレベータとしてしか利用されていない。迫りを動かすのは非常に危険で動かす場合はスタッフ4～5人が付く。また迫りの事故は大変悲惨。使用頻度から言っても迫りは要らないのでは。迫りの上にはピアノを置けず、置き位置の制限となる。

○委員長：設計案-2については何か意見はあるか。

○委員：特になくこれでいいと思うが、躯体を掘り込んだオーケストラ用のピットを万一のために設けておく是非については判断がつかない。

○日建設計：オーケストラピットはオペラとバレエ公演以外には利用されることがまずないので、これらの公演がどのくらいの頻度を想定するかによる。10年に1度あるかないかと言う頻度ならばピットのための掘り込みももったいない。むしろ前舞台としての拡張利用は考えられるが、これも主催者側が組立式のステージを仮設することが可能なように当該スペースの椅子が取り外せるようになっていれば対応が可能である。

○委員長：前舞台は普段はどうなっているのか。

○日建設計：普段は客席の床。この部分の椅子を外して束を立てて床板を乗せて舞台を仮設する。

○委員：座席の移動はスライド式ではないのか。組立床の除却方法はどのようにするのか。

○日建設計：椅子の固定ボルトを外して人力で持ち運ぶことになる。イスにはキャスターがついている。組立床も同様に人力で行う。

○委員長：除却は普通の一般職員でも出来る作業か。

○日建設計：特殊技能は不要であるが、舞台専任スタッフが行うことが多い。

○委員：前舞台があると市民レベルの利用にとって有効。設計案2で行って欲しい。気になるのは、前舞台仮設時に取り払った椅子はどこに置くのか。

○日建設計：舞台袖に一時的に仮置きすることが考えられる。

○委員：オーケストラピット横(客席床下)のスペースを使っては。

○日建設計：使用頻度を考えれば当該スペースの確保も勿体無いと思われる。

○委員：取り外すイスの数は。

○日建設計：100席程度となる。

○委員：取り外せる椅子のグレードは他の固定椅子と変わらないか。

○日建設計：見た目は同じである。

○委員：使用するのが10年に1度くらいのものであればいいと思う。

	<p>設計案-2でオーケストラピットを組み立てるのは大変で、民間ではまず行わないのでは。また、前方(オーケストラピット部分)の席は歩いたら音がでるのでは。</p> <p>○日建設計:グラスウールの裏張りはするが、歩行音などの感覚は変わる。</p> <p>○委員:前舞台は必要かもしれないが、歩いても音が変わらないよう、オーケストラピットを埋めて椅子だけ可動にしておいて前舞台だけできるようにしておいてはどうか。</p> <p>○委員長:椅子を残したままで前舞台の設営はできるのか。</p> <p>○日建設計:組立床の構造によっては可能であるが、椅子に傷をつける等作業性を考えると当該部分は全面的に椅子を取り外し式にするのが賢明と考える。取り外し式にするのはコスト的には大きくは変わらない。</p> <p>○委員:イスが移動式であるのならば、車椅子で最前部までスロープで行けないか。</p> <p>○日建設計:法的な制約もあるので、すこし難しいのでは。検討し、可否を事務局通じて回答する。</p> <p>○委員:住民より大ホールに伝統芸能の演出に使われている回り舞台を設置してほしいという声が多い。回り舞台ができないならば、迫り台と奈落は是非残して欲しい。</p> <p>○委員長:安全上、運営上、コスト上非常に問題があるとの意見がある。地域の方にご説明いただけないか。</p> <p>○日建設計:回り舞台のようなステージ上で回転させる装置・演出であれば奈落がなくとも仮設装置で対応している事例もある(写真を紹介)。主催者側で演出に応じた仮設装置を持ち込んで対応する考え方である。</p> <p>○委員長:直径はどのくらいか。</p> <p>○日建設計:色々可能であるが、写真のものは9mくらいある。</p> <p>○委員:この仮設装置の負担は誰がするのか。</p> <p>○委員:主催者側の持ち込みとなる。</p> <p>○委員:前舞台の部分に迫り台の仮設はできるか。</p> <p>○委員:舞台の前面の迫りは有り得ない。</p> <p>○委員:奈落もない、迫りもない舞台では一流のアーティストは来てくれないのでは。</p> <p>○委員長:逆に一流のアーティストは迫りなど使わない。</p> <p>○日建設計:最近のオペラ演出を見ても迫りを使った演出は少ない。迫りを使うことを前提にした演出プランにおいては、各地のホールを巡回するためには各ホールが同様の規模・配置で迫りを備えていなければならないので、実際問題として迫りを前提にした演出も少なくなっているように思う。</p> <p>○委員:回り舞台は仮設でも考えられるが、迫り機構は古典芸能などでは必須と思う。</p> <p>○委員:何もかもオールラウンドでスペックインすると全部のレベルが落ちて</p>
--	--

	<p>しまう。今度のホールはどちらかというとクラシック音楽中心にいいホールとし、かついろいろなものに使えるホールにしようという方針。歌舞伎や能などの使い勝手は、主催者側と演出側との交渉で決めていけばいいのでは。ハードの設備で足りない部分は運営でカバーしていけば良い。迫りの設営は音楽利用を考えるとマイナスになる。運営にもお金がかかってくる。</p> <p>○委員：迫りはあればあったで越したことはないが音響などのほうが大事では。前舞台の仮設は可能であればできるようにしておいていただきたい。</p> <p>○委員：カラオケなど歌手が歌詞を見ながら歌えるようにモニターを舞台に埋め込む設備ができないか。可児のホールではそういった設備があった。</p> <p>○日建設計：ロックコンサートなどではステージ上にホールドバックスピーカーと合せてプロンプターモニターを設置することが多く、床面に仮設することで問題ないのではないかと。位置を決めてしまえば逆に使いにくいのでは。</p> <p>○委員：カラオケ大会では 60 インチくらいのモニターを、客席の一番前に設置すれば誰もが見て歌うことが可能。舞台上に設置すると演者が下を向いて歌うことになり、歌手がやってはならないことである。</p> <p>○委員：新居浜の新ホールが演劇寄りだとすれば、四国中央は音楽中心で特色を出し、奈落を持つよりはオーケストラピットを持つ方が売りにはなるのでは。前舞台の設営を人力でとなると、市民利用を考えると大変なので、できればオーケストラピットありで考えていただきたい。</p> <p>○委員：今の三島・川之江両会館の主舞台の広さだと前舞台が必要だが、今回は主舞台の大きさ(奥行)が十分に広いので、前舞台の拡張が必要になると言うことも少ない。</p> <p>○委員：観音寺と四国中央のホールはどちらが音楽的に特化しているか。</p> <p>○日建設計：どちらも設計中なのでわからない。</p> <p>○委員：奈落や迫りがなく、音楽に対する特徴も大きくはないとすると、四国中央の特色はどうなのか。</p> <p>○委員：今のところかなりいいホールになると思っている。何で差別化するかというと運営面でやるべきこと。ホールの設備での差別化はコストをかけるしかないが、限られているので、運営での差別化を考えて行けば良い。</p> <p>○委員長：ホールとしての特色はまんなかロビーや芝生広場を出していけばいい。大ホール小ホールに求められるのは多くの方が利用でき、クラシック音楽に軸足を置いたもの。可児のホールには奈落があるが、演出的には一度も使用されていないとのこと。</p> <p>○委員：可児のホールには舞台上何箇所か 1m 角くらいの切り込みがあったが。</p> <p>○空間創造研究所：演出に利用するため、ステージに 6 箇所切り穴を設けている。</p> <p>○委員長：奈落・オーケストラピットの採否の結論は次回に持ち越しとしたい。</p>
--	---

<p>(3)大ホール客席間隔について</p>	<p>○日建設計:以前大ホール客席ピッチを930×530でおおよそ標準的なピッチで問題なく設計しているとの説明をしたが、再度議題としてご提案したい。元案が930×530、兵庫県立芸文センターと同じ寸法。B案は少しでも寸法を広く確保できないかの検討による。前後間隔を10mm増やして940×530としている。大阪・中之島の新フェスティバルホールと同じ寸法。弊社としてはB案をおすすめしたい。これに対し、C案は可児のalaでの寸法965×500で入れてみると、若干席数が増える。前後間隔の広さは席の前を奥の席の方が通り抜けるときの一瞬の余裕で決まってくるが、左右の間隔は公演中ずっと影響するので、どちらかといえば左右の間隔を優先したB案で推したいが、これについて皆さんの価値観でご議論いただきたい。</p> <p>○委員長:可児は演劇を意識したのか。</p> <p>○空間創造研究所:客が入った時の舞台との一体感を出す目的があった。</p> <p>○委員:B案でいいと思う。ユーホールや三島会館は。</p> <p>○事務局:ユーホールはかなり幅が狭い。中央通路の前後で幅が違う。中央通路より前は490でテーブル付き、後ろは420。前後は前方の席はかなり広いが、後方の席は今の計画とあまり変わらない。</p> <p>○委員:高松サンポートホールの両サイドの通路はかなり狭い。避難経路としての安全性が確保されていればB案としてほしい。</p> <p>○日建設計:避難上問題ない幅を確保するよう計画している。</p> <p>○委員長:左右の通路幅は確保しながら、B案前提で進めて欲しい。</p>
<p>(4)小ホールについて</p>	<p>○日建設計:最前列に車椅子席を設け、そこから舞台上に上がれないかという要望があったが、ホール上手のリハーサル室との間の廊下を真ん中が落ちるスロープで計画し、車椅子でも舞台上に上がれる計画とした。また、この廊下を扉で区画することでオプションとして楽屋側でも上下連絡通路が確保できる計画とした。</p> <p>・以前の委員会協議に基づき、クラシック音楽公演を重視しつつ多目的な用途にも利用できるものとして平面・断面計画を検討している。平土間対応を無くし可動席から固定席に変更したことで、客席上部はギャラリーが露出した構造ではなく、仕上げ天井を設け音響面に配慮している。また、舞台上部にも演奏音を効果的に舞台・客席に跳ね返すように天井反射板がセットできる吊物機構を計画している。反射板を使用しない時は垂直に立てて舞台上部に吊り下げて、その間に道具バトンを設置する。</p> <p>・断面計画上大ホールのようなフライタワーは考えていないが、天井反射板を舞台上部に完全に隠ぺい格納するまで必要とせず、また昇降式の固定緞帳も必要でなければ、多目的な利用にも問題はないと考えている。事例としても東京の豊島区あうるすぽっと、座・高円寺など演劇系の劇場と同様の断面形状で、舞台上にカスミ幕(一文字幕)や袖幕などをセットに応じて設置することで、仮想的なフライ空間を確保することも可能。天井高さは11mほど</p>

<p>(5)その他</p> <p>■企画・運営委員会への確認・提案事項について</p> <p>■今後の設計及び協議スケジュールについて</p>	<p>確保しているが、音響計画上の空間ボリューム確保のための高さ設定としている。</p> <p>・小ホールは市民団体や学校・音楽教室の音楽発表会や各種講演会などの利用頻度が多いと考え、これらの催しには簡単に舞台の設営が可能で、演劇など舞台セットの仕込みなどが伴う場合は照明器具や幕の吊り込みも合わせてその都度仮設の作業を行う方式と考えることが、より使い勝手が良いと考える。</p> <p>○委員長：小ホールは多目的とはいいながらクラシック音楽中心と言う共通認識であり、この意図を組んだ計画になっていると思う。</p> <p>○委員：フライタワーをなくすメリットは、価格面以外には？また、椅子の寸法は大ホールと同じなのか。</p> <p>○日建設計：ホールの用途やコンセプトにより計画は異なるので、メリットデメリットという比較の仕方は難しい。椅子の寸法は大ホールと同じ。左右の斜めの部分は若干間隔が詰まるが、基本的に940×530。</p> <p>○委員：床の段差はどのくらいか。</p> <p>○日建設計：1列あたり約450mmだが、通路部分は1段階を設けて各段225mm程度になる。</p> <p>○委員：この計画の方針でいいと思う。</p> <p>○委員：座席の下のラウンジ・湯沸し・洗濯とあるが、ラウンジや洗濯室は必要か。楽器庫として利用できないのか。</p> <p>○日建設計：廊下と段差があるので難しい。楽器庫の広さについては事務局を通じて個別協議にて議論する予定である。</p> <p>○委員：連続公演がある場合には衣装の洗濯を行うので、楽屋近くに洗濯室は必要。ラウンジは「寄り合い場」と表現すれば理解いただけるのでは。</p> <p>○委員：楽屋の天井の構造はどのようなものか。</p> <p>○日建設計：岩綿吸音板などを予定している。</p> <p>○委員：天井を張らずにコストダウンを行うなど、工夫をお願いしたい。</p> <p>○空間創造研究所：施設の設計に関して、企画運営面からの検討や確認が必要な事項および、これまで建設委員会で行った協議内容を企画運営面に引き継ぐものについて説明。</p> <p>追加項目がある場合は、12/6までに事務局まで連絡すること。</p> <p>○事務局：今後の設計及び協議スケジュールについて説明。</p> <p>(閉会)</p>
---	--